

JA全農ウィークリー

2  
面

# 鉄道クールコンテナを利用した 青果物の試験輸送を実施 (全農物流㈱・経営企画部)

6-7面

寄稿 持続可能な食と農を海外の政策から読み解く(上)

日本農業新聞特別編集委員 山田優氏



果実グミ

にほんブログ村  
にほんブログ村  
にほんブログ村

国産素材

「ニッポンエール」全国ご当地グミを9月27日に全国発売(8面)



JAからつでの試験輸送の様子(2面)

2 関係機関と連携し食育活動  
親子おにぎり体験教室開催(徳島県本部)

### 3 「全農とやまチャレンジファーム」開設 (富山県本部)

## 3年ぶりに全国統一新米キャンペーン 実施を発表（岩手県本部）

## 4 目指せ100万回再生 YouTube人気キャラクター 「クマーバ」と「笑味ちゃん」の コラボ動画配信(経営企画部)

5 JAズームイン(広島:JA広島北部)

8 「ニッポンエール」21都道府県のご当地グミ全国発売  
(営業開発部・全国農協食品(株))

「農協直売所クリームシチュー」  
「海老名いちごパウンドケーキ」新発売  
(神奈川県本部)

## JAタウンショップ紹介

### おいしいおかやま(岡山県)

**Web  
限定**

**JAグループ「秋田米新品種サキホコレ研究会」  
発足（秋田県本部）**

**ボクシング銅メダル田中亮明選手(岐阜県出身)へ  
県産農畜産物贈呈(岐阜県本部)**

「岡山県産白桃・ぶどうプレゼントキャンペーン」  
開催(岡山県本部)

「農協牛乳」を使用した菓子を新発売（営業開発部）

**Web版JA全農ウィークリーは  
こちらから**



<https://www.zennoh-weekly.jp/>



News!



## 鉄道クールコンテナを利用した青果物の試験輸送を実施

トラック輸送と変わらない品質保持が検証される

全農物流(株)・経営企画部

13 食の安全に  
具体的な対策を

全農物流(株)はJAからつと協力し、(株)丸和通運所有のクールコンテナで、環境負荷の小さい、鉄道を利用した試験輸送を実施しました。

今回は盛夏時の品質保持を目的とし、6月から7月にかけて数回にわたり、北海道市場に向けて、佐賀県産ハウスみかんの輸送を行いました。

試験では、佐賀県を出発して約70時間後に北海道へ到着しました。トラック輸送より輸送時間は1日延長しましたが、従来通りの品質を保つことができました。輸送時に利用したコンテナは一定の温度管理が強くみであり、夏場の品質保持だけでなく冬場の凍結防止にも運用が可能です。

※モーターシフトとは、トラックなどの自動車で行われている貨物輸送を環境負荷の小さい鉄道や船舶の利用へと転換すること



JAからつでの試験輸送の様子



試験輸送を行ったハウスみかん

News!



## 親子おにぎり体験教室開催

関係機関と連携し食育活動

徳島県本部

4 食の深い教育を  
みんなに

徳島県本部はJAや関係機関と連携し、食育活動に取り組んでいます。8月2日、とくしま生協と共同で「お米の学習会・夏休み親子おにぎり体験」を開催し、親子ら22人が参加しました。

学習会では米穀総合課の職員が、県南部の海部郡美波町で栽培されているお米「乙姫米」(※)を紹介し「お米ができるまで」を参加者に説明しました。その後、炊き立ての「乙姫米」を使って、好みの具材でいろいろな形のおにぎりを作りました。

参加した小学生からは「いつも作ってもらっているお母さんに、今日は私が作ってあげたい」と素敵なコメントをいただき、参加者にとって夏休みの思い出に残る有意義な一日となりました。

今後とも県本部は食への関心につながる「楽しい食育活動」を継続していきます。

※「乙姫米」は海部郡美波町日和佐地区で栽培されている特別栽培米。日和佐地区では1989(平成元年)年から「有機米づくりの里」を目指して栽培に取り組んでおり、安全・安心な地域のブランド米として地域全体で環境保全型農業を続けています。



「お米ができるまで」を参加者に説明



おにぎり作りを体験





## 「全農とやまチャレンジファーム」開設

富山県に適した収益性の高い施設園芸モデル確立へ

富山県本部

新設したハウス3棟。夏季高温対策に有効な高軒高。



富山県のトマトの主要作型は5、6月の短期出荷ですが、近年全国的にも出荷量が増え価格が安く収益性が低い状況にあり、高単価が期待できる9、10月の出荷を組み合わせた長期栽培の実現が課題でした。そこで、半促成栽培と抑制栽培を組み合わせたインタープランティング技術に取り組みました。インタープラン

富山県本部は、富山県に適した収益性の高い施設園芸モデルの実証と、施設園芸導入を検討する生産者や新規就農者に対する研修機会の提供を目的に「全農とやまチャレンジファーム」を開設し、中玉トマトの栽培実証を始めました。

抑制栽培の生育状況



ティングとは、1作目の栽培期間中に2作目を定植する技術で、途切れることなく出荷することができま。今回、本県の厳しい夏季高温対策として高軒高ハウスと細霧冷房装置を導入し、ハウスの軒高と栽培環境設備（暖房・細霧冷房）の有効性を実証します。

今後、富山県本部では「全農とやまチャレンジファーム」の運営を通じて県内の施設園芸の拡大を目指します。



## 3年ぶりに全国統一新米キャンペーンの実施を発表

いわての純情米「一度でいいから食べてみて。」キャンペーン

岩手県本部

岩手県本部から配信した「2021いわて純情米新米キャンペーン」web説明会。



説明会で越沼洋一副部長は「米の販売情勢はコロナ禍で依然厳しさが続いており、大幅な作付け転換を進めてきた。このような中で、3年産米はリスタートと考え、いわて純情米の新たな需要創出に向け再構築していきます」とあいさつした。

岩手県本部は8月4日、「2021いわて純情米新米キャンペーンweb説明会」を初めて開催し、全国の取引先20社が参加しました。

ました。また、令和3年産米の生育状況、新たな販売戦略や、県オリジナル品種である「銀河のしずく」の生産拡大について説明しました。

この「いわての純情米『一度でいいから食べてみて。』キャンペーン」は、県本部として3年ぶりの全国統一キャンペーンです。

①いわて純情米5kg以上の購入者にいわて牛サーロインステーキや三陸海宝漬が当たるクローズドキャンペーン、②「金色の風」「銀河のしずく」のモニターキャンペーン、③実需者へいわて純情米新米をお届けするダイレクトサンプルの3本柱で実施します。また、購入を促進するため、テレビCMを関東・関西・中京・岩手県内で放送予定です。

YOUTUBE人気キャラクター

目指せ  
100万回再生!「クマーバ」と「笑味ちゃん」の  
コラボ動画配信開始

全農は、(株)Kumabaと連携し、同社が運営するキッズ向け動画投稿サイトYouTube「クマーバ」チャンネルの人気キャラクター「クマーバ」とJAグループの「笑味ちゃん」がコラボした動画「おやさいたいそう」を制作し、「野菜の日」である8月31日に「クマーバチャンネル」で配信を開始しました。年度内の動画目標再生回数100万回の達成による国産野菜の消費拡大への貢献に向け、今後さまざまな施策を展開します。【経営企画部】

これらの課題に対する一つの処方箋となればとの想いから、この施策に取り組んでいます。「クマーバ」は2019年5月のデビューから、わずか2年超でチャンネル登録者数32万人を実現し、乳幼児とその親世代に対する「情報拡散力」が期待できるキャラクターです。動画は、ユニバーサルミュージックとのキッズソングプロジェクト「DJクマーバミュージック」の人気楽曲である「おやさいたいそう」を「笑味ちゃん」と「クマーバ」が仲良くダンスする内容となっています。動画には楽曲に合わせて国産野菜が多数登場し、子どもが親しみをもつて楽しく野菜の名前が覚えられる内容になっています。

信を記念して、クマーバチャンネル公式インスタグラムにて「おやさいたいよう」投稿キャンペーンを実施しています。今後は、国産野菜の消費拡大施策として、Aコープ、農産物直売所、量販店などの青果物売り場などでの動画配信についても検討していきます。

動画はこちら

<https://youtu.be/PKtrpdQKydY>


キャンペーンについてはこちら

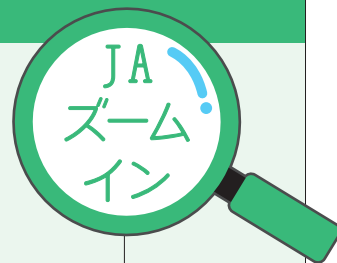
 クマーバチャンネル公式ホームページ  
<https://kumarba.com>


## クマーバチャンネル概要



|                 |                                                                                   |
|-----------------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| YouTubeチャンネルURL | <a href="https://www.youtube.com/c/kumarba">https://www.youtube.com/c/kumarba</a> |
| 公式ホームページ        | <a href="https://kumarba.com">https://kumarba.com</a>                             |
| 配信開始            | 2019年5月1日                                                                         |
| チャンネル登録者数       | 32万人                                                                              |
| 総再生回数           | 3億7000万回                                                                          |
| 受賞歴             | 「日本キャラクター大賞2021」ニューフェイス賞<br>(主催：一般社団法人キャラクターブランド・ライセンス協会)                         |





# 広島県初となるJGAP団体認証を取得

## チャレンジファーム開設で就農支援も

新しい産直市を目指し、  
リニューアルオープン

J A 広島北部は、2005年4月1日、J A 広島千代田とJ A たかたが合併し、安芸高田市と山県郡北広島町(千代田地区・大朝地区)をエリアとして発足しました。管内は、中国山地の稜線の南側に位置し、貫流する江の川を水系とした面積799・74km<sup>2</sup>の農業が基幹の中山間地域です。



新たな産直市「ベジパーク安芸高田」



来場者を出迎えたスイカのカービング作品

20年4月24日、安芸高田市の道の駅「三矢の里あきたかた」のオープンに伴い、「ふれあいたかた産直市」を「ベジパーク安芸高田」としてリニューアルオープンしました。新型コロナウイルス感染症の影響によりJ A まつりなどのイベントの中止

が相次ぐ中、「ベジパーク安芸高田」が生産者と消費者をつなぐ場となるよう活動しています。「スイカコンテスト」や「収穫祭」などのイベントで野菜の品評会や即売会などを企画し、生産者の日頃の努力を披露する場作りや、来場者にも楽しんでもらえる取り組みをしています。

安全安心を提供  
(広島県初のJGAP  
団体認証を取得)

J A 広島北部白ねぎGAPチームは、生産者13人からなり、約7・1畝で白ネギを栽培しています。19年6月から販売強化や生産工程の見直しなどに取り組み、20年4月に広島県初となるJ

が相次ぐ中、「ベジパーク安芸高田」が生産者と消費者をつなぐ場となるよう活動しています。「スイカコンテスト」や「収穫祭」などのイベントで野菜の品評会や即売会などを企画し、生産者の日頃の努力を披露する場作りや、来場者にも楽しんでもらえる取り組みをしています。

### J A 広島北部 (広島県)



概要 令和3年3月31日現在

|         |                                         |
|---------|-----------------------------------------|
| 正組合員数   | 1万91人                                   |
| 准組合員数   | 6711人                                   |
| 職員数     | 318人                                    |
| 販売品取扱高  | 38億9千万円                                 |
| 購買品取扱高  | 29億9千万円                                 |
| 貯金残高    | 1263億5千万円                               |
| 長期共済保有高 | 3556億7千万円                               |
| 主な農産物   | 青ネギ、ミニトマト、チンゲンサイ、白ネギ、アスパラガス、キュウリ、ブロッコリー |

トを生産する研修指導者が栽培技術や経営ノウハウを指導し、町での就農を支援します。

### 新規就農者の経営安定へ チャレンジファームを開設

21年7月、新規就農希望者が模擬経営する研修農場「全農チャレンジファーム広島・北広島農場」を北広島町石井谷に開設しました。同農場はパイプハウス7棟を備え、2年間の実践型研修で栽培技術や農業経営の基礎を学びます。同町でミニトマ



新規就農者を支援する新たな一歩



J A 広島北部白ねぎGAPチーム

# 環境重視型農業と食料の権利

## 持続可能な食と農を海外の政策から読み解く(上)

日本農業新聞特別編集委員 山田優氏



温暖化対策を目的とした脱炭素・カーボンニュートラルは今や世界の農業の潮流となっています。欧米では政策を通じてどのようにしてその実現を図ろうとしているのか。日本の「みどりの食料システム戦略」の実現に向けても大いに参考になります。海外の農業政策事情に詳しい日本農業新聞特別編集委員の山田優氏にご寄稿いただきました。(全2回)

### 畑に木を植える農家

南仏のオーシュを訪ねたのは4年前。どうしても見たかったものがあつた。フランスの農業改良普及員を退職して有機農業を始めたピエール・プジョさん(54)が、畑に木を植えているという話を聞いたからだ。以前、彼が訪日した際に埼玉県小川町の有機農家、金子美登さんの農場を案内した縁があつた。

効率を求めれば、ほ場は大きい方が良いに決まっている。大型農機の普及に伴ってフランスでは畑を区切るヘッジと呼ばれる石垣や生け垣、立木を取り払った。畑

1枚当たりの面積が大きくなり、大型トラクターが走り回ることによって生産性は大きく向上した。

なぜ、プジョさんは効率とは逆の道を選んだのかを聞いてみたかった。

なだらかな斜面に広がる210ヘクタールの畑には、一面にカバークロープと等高線に沿って数十メートル幅で苗木が植えられていた。

プジョさんは、私を隣の畑との境界に連れて行くと、地面に腰掛けた。隣の畑に比べ、プジョさんの畑は30センチほど高かった。

「僕が就農して4年。土壌の浸食を防ぐ効果がはつきり出たよ」

土を耕さず、カバークロープで表土を守る。さらに植えられた木々が育てば、風を遮り、植生や昆虫など生物多様性が豊かになる。自らの農業の夢を語っていた。

今年の8月半ば、プジョさんを案内してくれたフランス・アグロフォレストリー(農業森林)協会のファビアン・バラゲ国際部長に電話で話を聞いた。

「ピエール・プジョさんの畑の木は、4メートル近くまで生長した。おかげで畑は豊かな生物相となり、彼の試みは大成功だよ」

私が訪れた時と風景は変わったようだ。畑は森と複雑に絡み合い、しつかりと地域の環境の中に溶け込んだという。

この4年間に変わったのは、プジョさんの畑だけではなかった。

「フランスはもちろん、欧州全域でアグロフォレストリーは爆発的に増えているよ」

電話の向こうでバラゲ部長は興奮気味に話してくれた。

### 欧州農政の大転換

追い風になるのは、欧州農政の大転換だ。欧州連合(EU)は2020年、地球環境対策強化の環として、農業分野で大胆な方針を打ち出した。ファーム・トゥ・フォーク(F2F)戦略と呼ばれる。農業・肥料の削減や有機農業の大幅な拡大のほか、地球温暖化対策などが盛り込まれた。EUは世界に先駆けて農業の新しい国際基準を決めると意気込む。

これからF2Fを欧州共通農業政策に具体策として落とし込む作業が始まる。同政策はまんべんなく農家を支援する政策から、環境政策への色彩を強めたのが特徴。農家に支払う補助金の4割は、環境に役立つことを条件に支払われることになる。

アグロフォレストリーは①二酸化炭素など温室効果ガスを木に貯蔵②生物多様性





を豊かにする③農村の景観を改善するなどの効果がある。EUは、一律に1ヘクタール当たり100本を上限としていた農地の植林基準を見直すなど、アグロフォレストリーの規制緩和をして後押しする計画だ。

「出番が来た」とバラゲ部長らが期待に胸を膨らますのは当然だろう。

## 納税者の視点を意識

なぜ、F2Fのような環境重視型農政

が生まれてきたのだろうか。

21世紀冒頭に、欧州農業政策の大改革を成し遂げたフランツ・フィシュラー元EU農業担当委員を2018年、彼の出身地であるオーストリアのインスブルックに訪ねた。

——欧州共通農業政策は農業者の支援から環境対策としての側面を強めていきます。

「国家にとって農業や農村は大切だが、農業者イコール弱者ではなくなった。農村に多額の予算をつぎ込むには、納税者が納得するだけの理由が必要だ。それが環境問題であり、アニマルウェルフェアだ」

——納税者を意識することが大切になってきたのですね。

「補助金を支払うには目的をはっきりと説明できることが重視されるようになった。共通農業政策が残るためには、納税者の視点がますます重要になるだろう」

フィシュラー氏の予言は、F2Fとなつて、現実の欧州農政に反映されたように見える。

環境問題には冷淡な態度を取り続けたトランプ氏から、バイデン大統領に、パトナッチされた米政権も、温暖化対策重視に舵を切っている。政権は休耕面積の大幅な拡大などで温室効果ガス抑制、生物多様性の向上を進める考えだ(※)。

欧州とは温度差はあるものの、全米の農業地帯で高温、干ばつ、山火事などの被害が拡大し、農家も環境対策は自分たちの問題だと考えるようになってきた。

実は先進各国とも、自国の農業保護には力を入れている。完全な自由放任の競争で保護を撤廃したら、農業が衰退し、地方経済や食料安全保障に打撃となることを懸念するためだ。農業大国をうたう米国も例外ではない。

日本農業過保護論を批判する東京大学の鈴木宜弘教授の近著(食料・農業の深層と針路II創森社)によると、農業所得に占める補助金の割合は、日本が38%なのに、米国は42%、フランスやドイツ、英国は6割以上(いずれも2012年)と高い。

「日本の農家は外国よりも補助金に依存している」というのは間違い。各国とも都合良く相手国の悪口を言うが、ちやっかりと自分の所は保護しているからだ。欧米諸国は納税者の目を意識して農政を手直ししつつ、自国の農業保護を持続させるねらいがある。

## 日本もみどりの戦略

日本では農水省がみどりの食料システム戦略を5月にまとめ、その後、政府

全体の骨太の方針に正式に位置づけられた。さらに政府は法制化を計画している。欧州のF2F戦略などの動きに刺激され、「わが国として持続可能な食料供給システムを構築し、国内外を主導していくことが急務」(農水省)という判断で練り上げられたものだ。

これまで生産性向上、生産振興、需給の調整、輸出拡大などを大きな柱にしてきた国内農政に、環境対策を思い切つて格上げしようという宣言とみられる。国内の有機農業面積を2050年までに100万ヘクタールまで引き上げるなど大胆な目標を掲げた。

先進国農政は、音を立てるようになって環境重視型に転換しつつある。日本も遅ればせながらその流れに乗り込もうとしている。農薬・肥料の削減など直面する課題は多く、生産者やJAにとつて厳しい内容も想定される。しかし、納税者、消費者の理解を得るための努力を続けることが、求められている。

※注釈) 米農務省が1980年代から行っている土壤保全休耕プログラム(CRP)は、河川汚染の防止や土壌により吸収された温室効果ガスの大気放出を防ぐことを目的に、一定の土地を対象に政府が補助金を支払い、農家が作物栽培を止める仕組み。現時点で800万ヘクタールがCRPにより休耕されている。バイデン政権では新たに160万ヘクタールを追加する方針。

## 「ニッポンエール」全国ご当地グミを9月27日に全国発売

### 21都道府県の特徴ある果実28種を使用

全農は、全国農協食品(株)を販売者として、全国各地の特徴ある果実を使用した「ニッポンエール」ブランドのご当地グミ28種を、9月13日から一部店舗で先行発売、27日から全国で発売します。

【営業開発部・全国農協食品(株)】

今回発売する28種は、47都道府県中21都道府県を網羅しており、各地の特徴ある果実を使用したグミとなっています。使用する果実の多くは加工用の原料として一般流通には向かない規格外品も使用しています。新しい品種や普段食べる機会が少ない果実についても、グミとして商品化することでその果実の知名度向上をはかり、生鮮での販売強化につなげていきます。

今後も各産地・JAと連携して、47都道府県の特徴ある果実を使用したグミシリーズ商品の販売を計画しています。



ニッポンエールサイトはこちら  
<https://www.zennoh.or.jp/nippon-yell/>



## 新発売

### 「農協直売所クリームシチュー」「海老名いちごパウンドケーキ」

神奈川県本部は、新商品「農協直売所クリームシチュー」(9/15発売)、「海老名いちごパウンドケーキ」(9/17発売)を開発しました。【神奈川県本部】

「農協直売所クリームシチュー」は神奈川県産の小麦とタマネギを使用したフレークタイプのシチューです。冬の季節商材として、直売所限定販売である「農協直売所シリーズ」の仲間入りをします。「海老名いちごパウンドケーキ」はJAさがみ、(株)ありあけとの共同開発品です。(株)ありあけとはJA横浜の「浜なし®」を使用したパウンドケーキを開発しており、本商品が第2弾となります。海老名産のイチゴは県内一の共販出荷量を誇り、完熟して出荷するため、甘さとコクと程よい酸味で人気です。

神奈川県本部は今後も県内農畜産物の認知度・ブランド力向上、ならびに規格外品活用に向け、一次加工品を原料とした商品開発・販路拡大などを進めていきます。



海老名いちごパウンドケーキ  
税込み800円  
JAさがみ直営の直売所および  
営農経済センターで販売

農協直売所クリームシチュー  
税込み324円  
県内JA直売所に販売

## JA全農のインターネットショッピングモール JAタウン ショップ紹介

### おいしいおかやま

明治時代からブドウ作りが始まった岡山県では、さまざまな品種のブドウが丹精込めて育てられています。ニューピオーネは、「巨峰」と「カノンホール・マスカット」の交配によって生まれた濃い紫色の風味豊かなブドウです。

その魅力は、種なしで皮がはがれやすいため、小さな子どもでも食べやすいことです。大粒の実を口に頬張ると、爽やかな甘みの果汁が広がります。贈り物にもおすすめの逸品です。



ニューピオーネ 2房詰(1.0Kg)  
岡山県産……4000円(税込み)

ご注文は  
こちらから



▶ JAタウンはこちらから <https://www.ja-town.com>  
▶ お問い合わせは ☐ [shop@ja-town1.com](mailto:shop@ja-town1.com)

